

**インナー事業部・繊維資材事業部・アパレル部が
サステナブル製品・素材を提案****澤村「サステナブル EXPO 春」出展**

澤村(株) (大阪市中央区・春日強社長) は、4月6日から8日までの3日間、東京の東京ビッグサイトで開催された「第2回サステナブルファッション EXPO 春」(主催: RX Japan(株)) にブースを出展した。これまではインナー事業部が単独で出展していたが、今回はインナー事業部・繊維資材事業部・アパレル部の3部がサステナブル素材や製品をトータルに提案した。

その中で、アパレル部はオーガニックコットンを100%使用した子ども服を訴求。素材はもちろん、海外の生産工場の労働環境など製品化に至るまでの各プロセスにも配慮したものの作りを行っているのが特徴だ。札幌発のアウトドアブランド「Monoso」とライセンス契約を締結し、オーガニックコットン100%素材のTシャツやキュロットパンツなどの子ども服の展開もスタート。子どもとリンクコーデが楽しめるようママ向けのアイテムも用意した。今年からは米国のワークウェアブランド「ROUND HOUSE」のキッズウェアのライセンス展開も本格的にスタートしており、こちらはコーデュラ・コットンなど毎日の洗濯にも耐えるタフな素材をラインアップするなどワークウェアブランドならではのアイテムを幅広く打ち出していく。

繊維資材事業部の展示で注目を集めたのは、東洋染工(株) (福井県坂井市) が開発した薄層アクアホールを備えた凹凸構造生地加工技術「AQUA HOLE」。ベースとなる生地に吸水性を付与し、凸部先端にのみ撥水加工を施す技術で、汗を凹部から吸収し、肌に触れる凸部は撥水されているため、汗をかいてもさらさらな快適性を保つことができる。フェムテック向けの素材としても



引き合いが拡大中の素材だ。この他、皮脂などの油汚れが簡単に除去できて優れた吸水速乾性を備える吸水・防泥加工「Hyseed」などの高機能素材を中心に提案した。また、定番素材をリサイクル素材に置き換える取り組みも推進しており、再生ポリエステルへの置き換えは既に3品番が完了。今後もリサイクル素材へ転換する品番や素材を順次拡充していく計画だ。

インナー事業部では、支援が届きにくいマイナースポーツとのコラボを推進。女性アスリートと共同で商品を開発・販売し、その売上の一部をアスリートに還元することでアスリート支援につなげる取り組みを中心にアピールした。これまでにフェンシング・フルーレの狩野愛巳選手と共同開発したスポーツブラとスポーツレギンスの商品化を実現。今後も様々な競技のアスリートとのコラボ企画を進めることで、アスリートを支援していく。